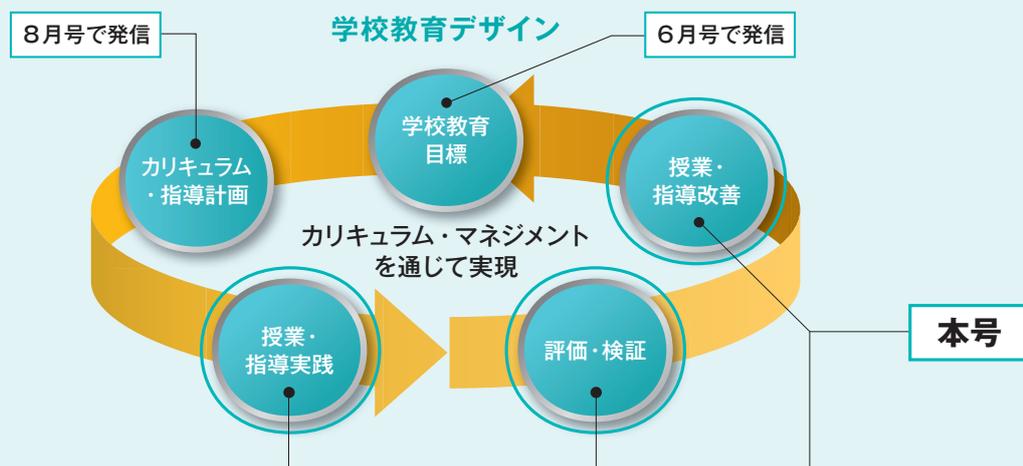


「学校教育デザイン」を描く③ 資質・能力を育む 授業と評価のあり方

本誌6月号において、これからの学校教育目標のあり方を、
8月号において、学校教育目標を達成するための
これからの教育課程・教育活動計画のあり方を考えてきた、
次の自校の姿を描く「学校教育デザイン」。
今号は、いよいよ実践のフェーズに目を向ける。
学校教育目標や次期学習指導要領で目指す資質・能力を育成する授業、
そして、目指す資質・能力が育めたのかを見取ることのできる評価とはどのようなものなのか。
それらを実現するために求められる視点や実践のポイントとともに考えていく。

2017年 特集の年間テーマ

2020年度・22年度に向けて、次の自校を創るために必要な視点を押さえた
「学校教育デザイン」を描く



本号のテーマ

学校教育目標や学習指導要領で目指す資質・能力は、
どのような**授業**や**評価**で育まれるのか。
その実現のために教師に求められること、実践のポイントは何か。

1 資質・能力を育む授業と、それを見取るための評価とは

【P.4～7】

授業

「主体的・対話的で深い学び」を実現する

実現のポイント

- ①これまでの授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点で捉え直す
- ②「主体的」「対話的」「深い」の3つの学びの視点は、単元や題材のまとまりの中で実現させる
- ③各教科等の特質に応じた「見方・考え方」によって学びを深める
- ④教師が、生徒の思考を深めるための発言を促したり、気づいていない視点を提示したりする

評価

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の
3つの観点で評価する

実現のポイント

- ①3つの観点での評価は、単元や題材のまとまりの中で行う
- ②多様な方法で、多面的・多角的に評価する

2 その実現のために教師に求められること、実践のポイントは何か

現場の教師や識者の声から見てきたキーワード「**差異**」と「**発問**」を軸に、
資質・能力を育む授業と評価を実現する視点や実践のポイントを考える

座談会で
視点を探る
【P.8～13】



関西大学
教育推進部
教授
森 朋子



静岡県立
御殿場高校
美那川雄一



岡山県立
倉敷青陵高校
田中誠一郎

「差異」に出合わせる発問で、生徒を主体的にし、深い学びに誘う

事例から
実践のポイントを
考える
【P.14～21】

学校教育目標「8つの力」を育成する授業と評価のあり方を探る
山梨県立吉田高校

実践の進め方◎3人の教師が、育成したい「8つの力」を基に授業計画を作成した上で、授業を実践。授業後は、教師と生徒と一緒に振り返りを行い、次の授業と学びに生かすという試みに取り組んだ。



▲授業後の教師と生徒による振り返りの様子